
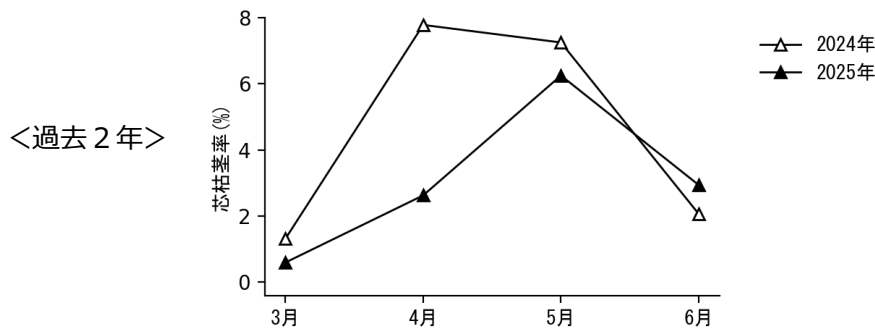
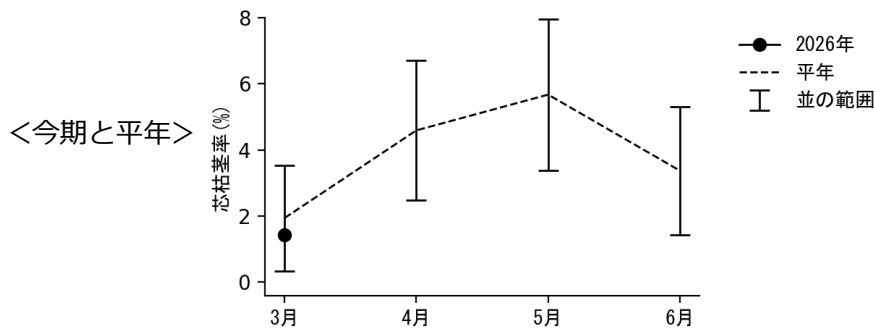


| | | | | |
|-------|------------------------------|---------------|---|------|
| 作物 | さとうきび | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ) | |  | |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | | |

調査結果


芯枯茎率の推移 (株出し)



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ
- ・発生ほ場率56.2% (平年：67.6%)

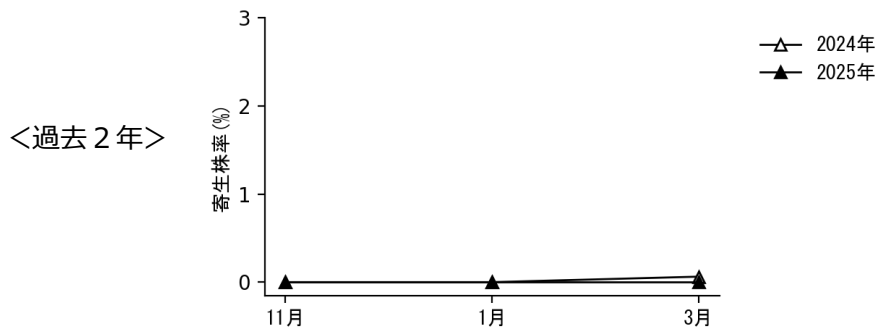
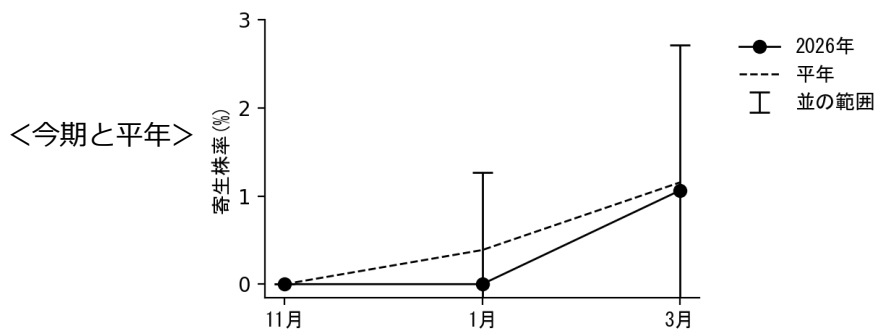
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

| | | | |
|-------|---------------|----|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | カンシャワタアブラムシ | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | — | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | — | |
| 予報の根拠 | | | |

調査結果


寄生株率の推移



・発生ほ場率37.5% (平年 : 28.1%)

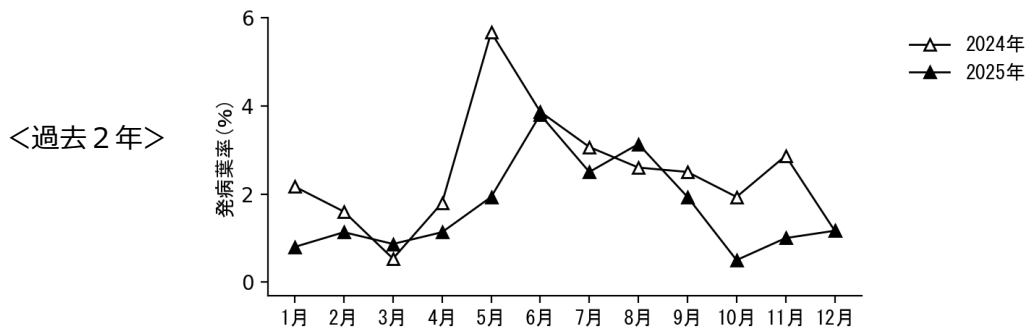
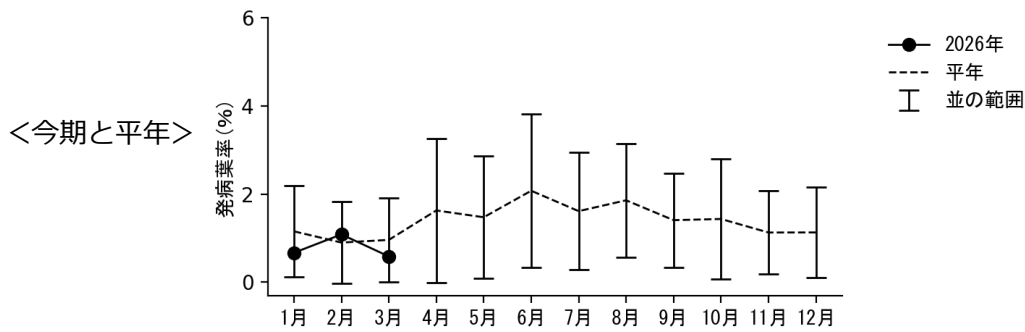
防除のポイント

- ・多発すると吸汁害及びすす病によりさとうきびの生育が遅延する。
- ・新植夏植えに秋期に飛来した有翅虫から数世代にわたり増殖する。定着すると春期の大発生の原因となるので葉裏を良く確認して早期発見に務める。
- ・葉裏に寄生する成虫や幼虫に乳剤等の散布を行う。

| | | | |
|-------|--------------|--------------|---|
| 作物 | かんきつ（温州みかん） | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | そうか病 | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 4 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↗） | |

調査結果

発病葉率の推移




- ・葉の発病度0.1（平年0.3）
- ・発生ほ場率50.0%（平年：44.9%）

防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

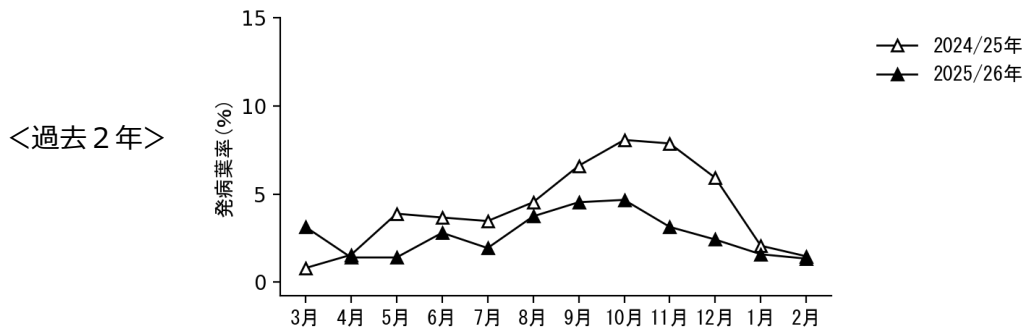
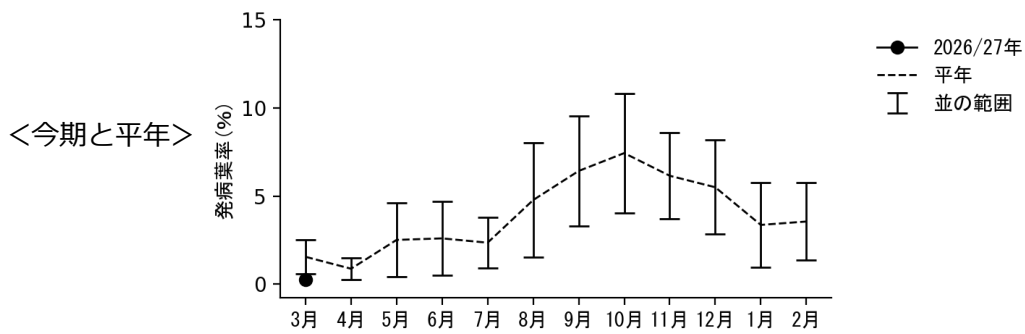
被害果→



| | | | |
|-------|--------------|---------------|---|
| 作物 | かんきつ (タンカン) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | かいよう病 | |  |
| 調査結果 | 3月の発生量 (平年比) | やや少 | |
| 予報 | 3月からの増減傾向 | ↘ | |
| | 4月の発生量 (平年比) | やや少 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↘) | |

調査結果

発病葉率の推移




- ・葉の発病度0.0 (平年0.3)
- ・発生ほ場率50.0% (平年 : 62.0%)

防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

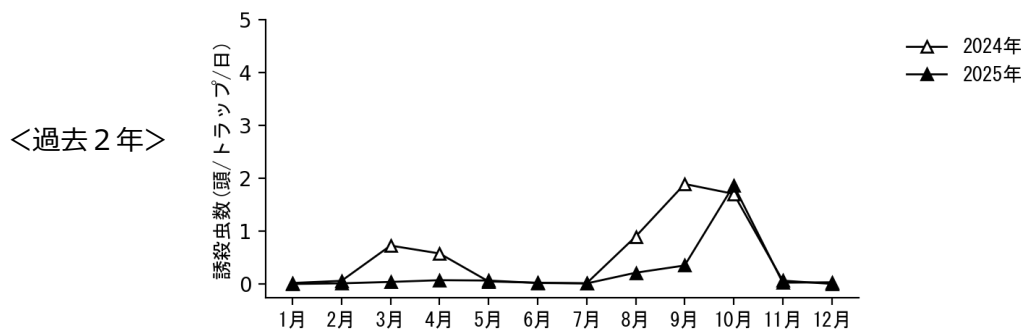
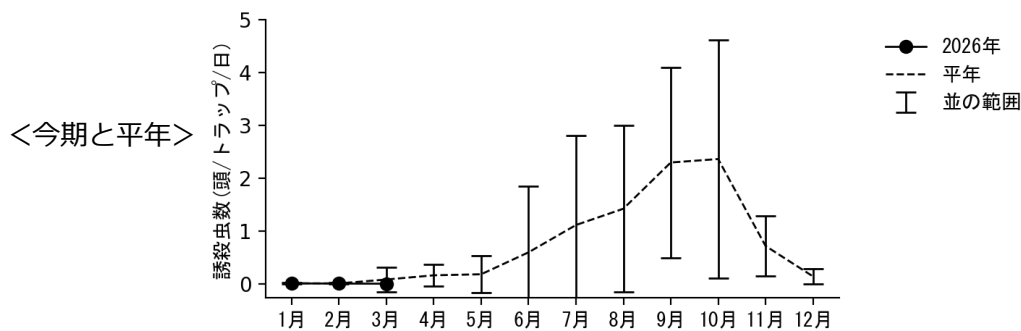
被害葉→



| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | チャノキイロアザミウマ | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予 報 | 3 月からの増減傾向 | → | |
| | | 4 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率75.0% (平年：42.5%)

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

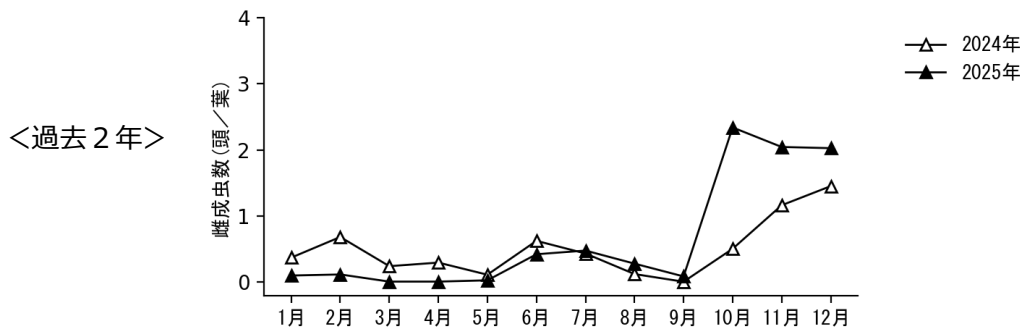
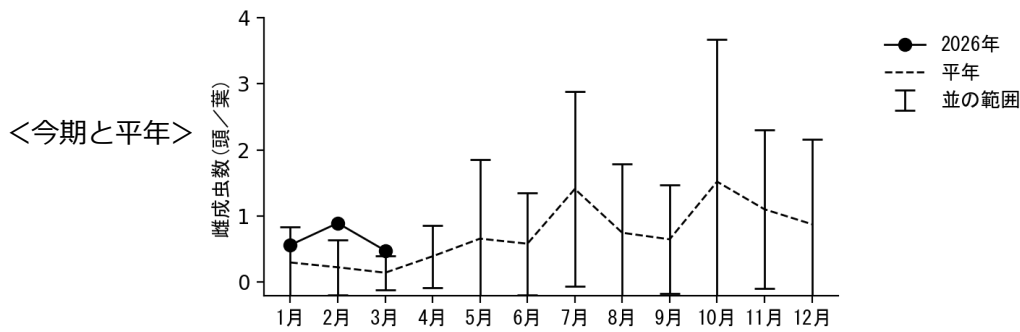


ナガエコミカンソウ

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① ハダニ類 | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率16.7% (平年：24.7%)
- ・一部ほ場で多発

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

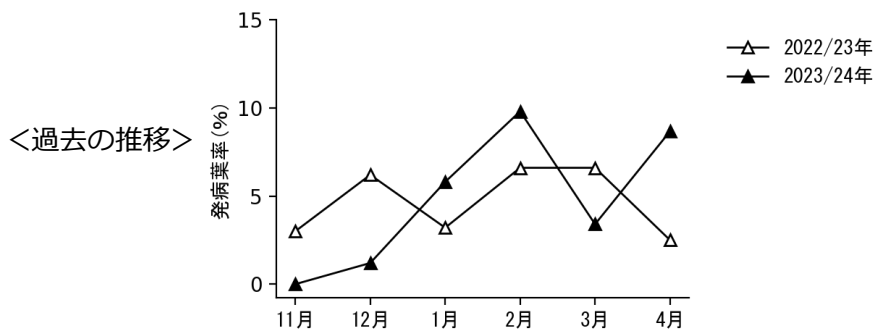
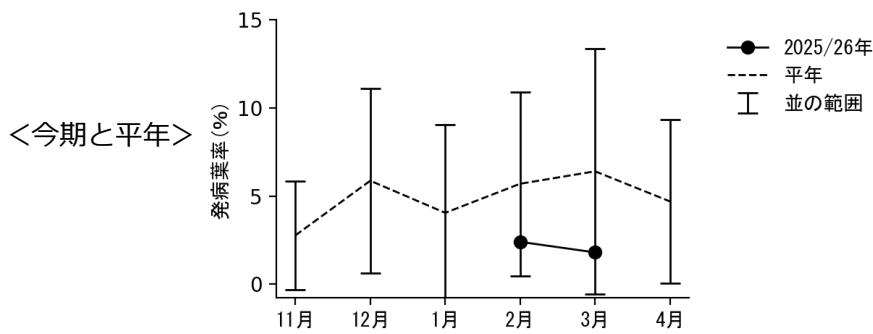


マンゴーツメハダニ

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | ニガウリ(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① うどんこ病 | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予 報 | 3 月からの増減傾向 | ↘ | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↘) | |

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年：44.4%)

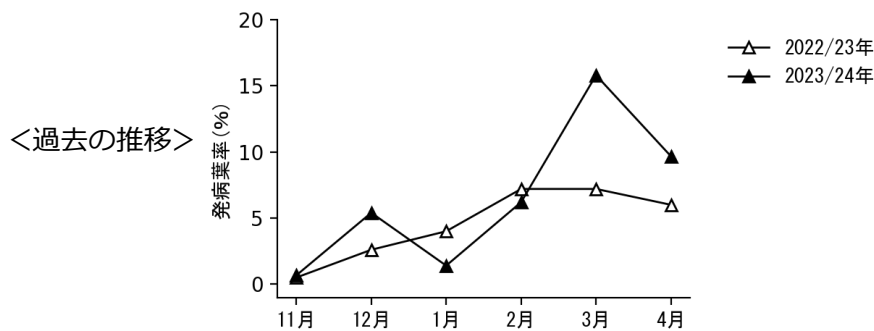
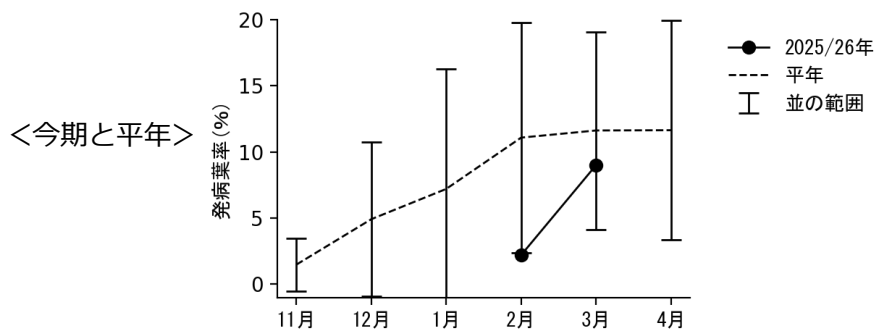
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

| | | | | |
|-------|---------------|---------------|---|------|
| 作物 | ニガウリ(施設) | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② 斑点病 | |  | |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | → | | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | | |

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 73.3%)

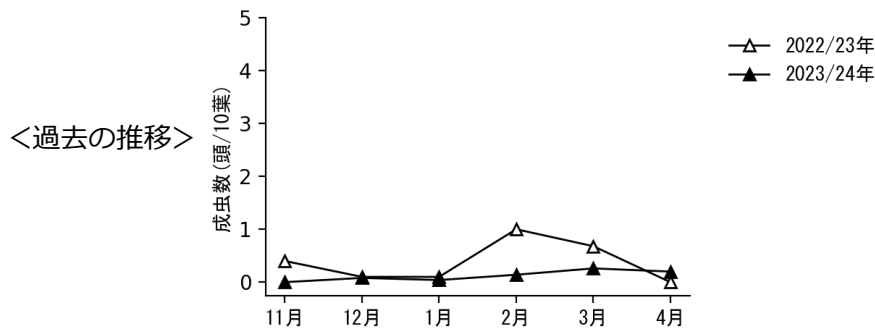
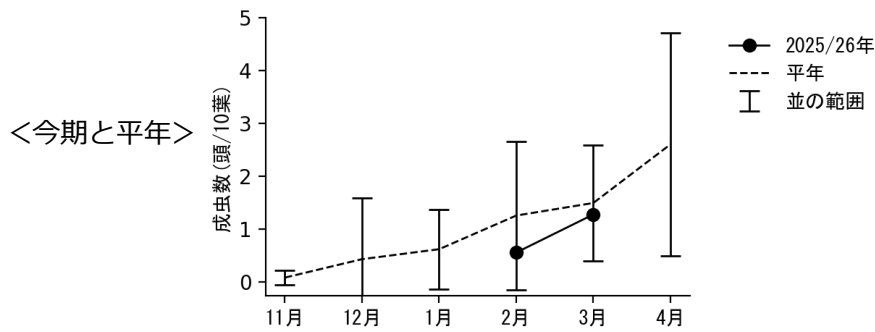
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

| | | | | | |
|-------|---------------|---------------|---|------|--|
| 作物 | ニガウリ(施設) | | 地域 | 沖縄群島 | |
| 病害虫名 | ③ ミナミキイロアザミウマ | |  | | |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | | | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | | | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | | | |

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率100% (平年：62.2%)

防除のポイント

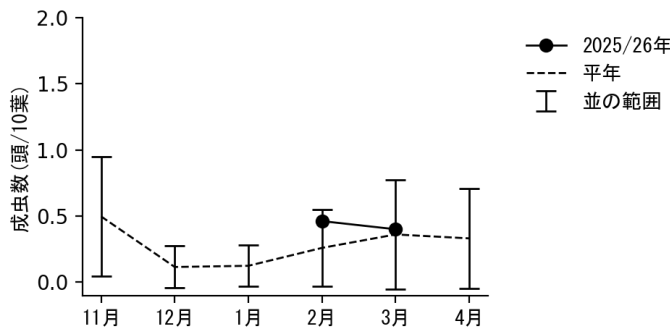
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | ニガウリ(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ④ タバココナジラミ | |  <p>成虫</p> |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | → | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

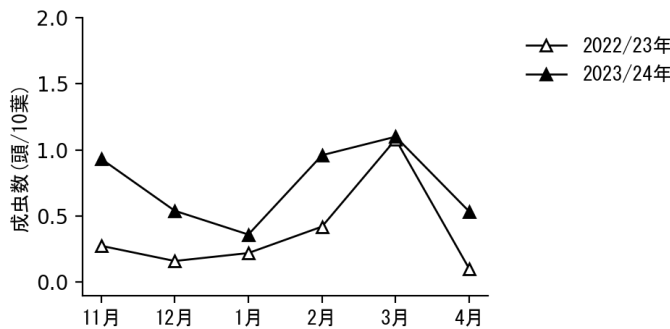
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去の推移>




・発生施設率80.0% (平年：33.3%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

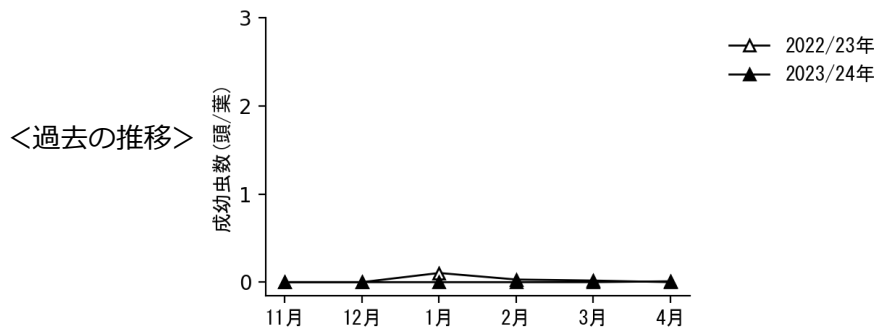
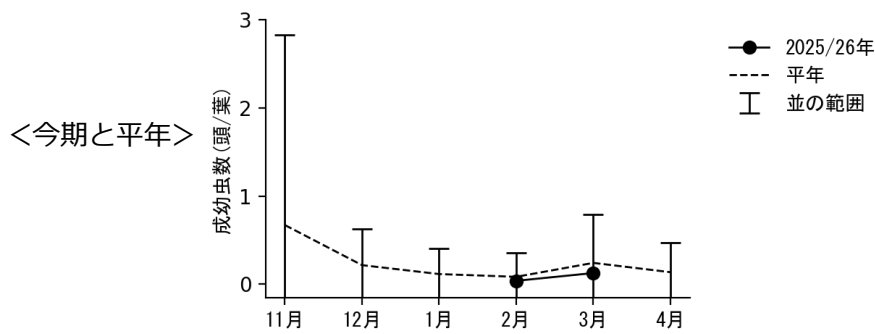


幼虫

| | | | |
|-------|---------------|---------------|--|
| 作物 | ニガウリ(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ⑤ アブラムシ類 | |  <p>ワタアブラムシ</p> |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | → | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果


成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率40.0% (平年：15.6%)

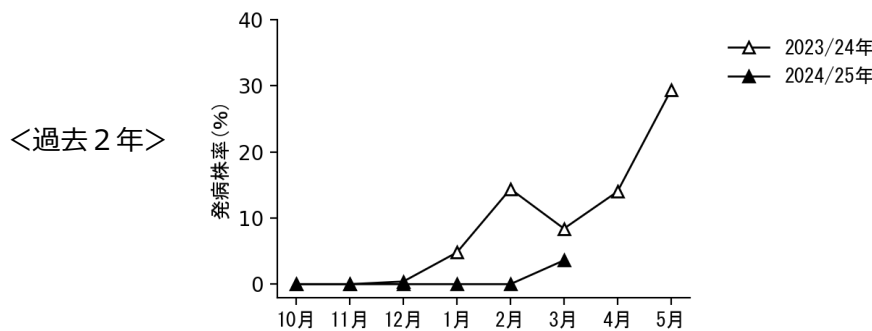
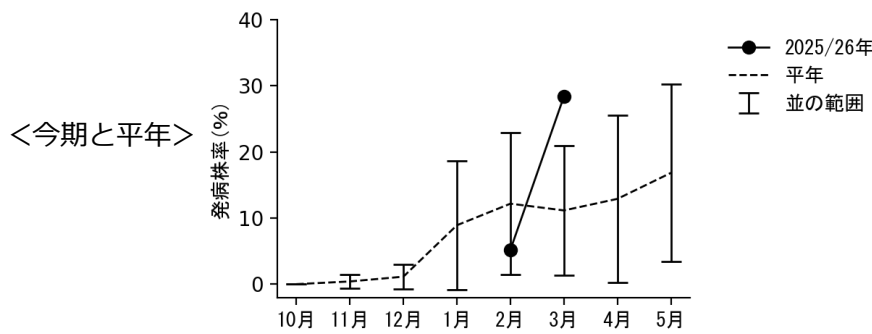
防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

| | | | |
|-------|---------------|---------------|--|
| 作物 | ピーマン(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① うどんこ病 | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果


発病株率の推移



- ・発生施設率100% (平年 : 54.2%)
- ・一部ほ場で多発。

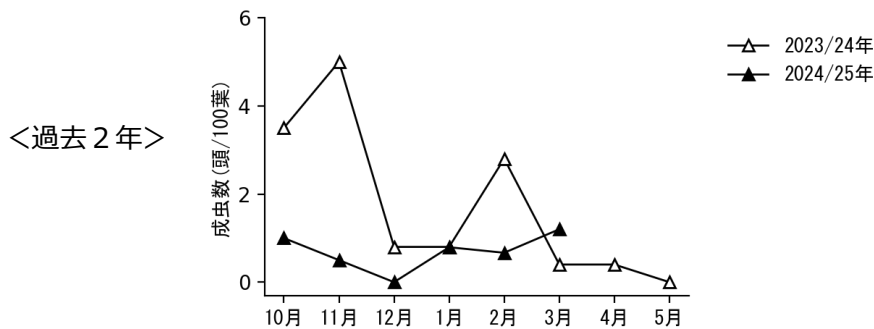
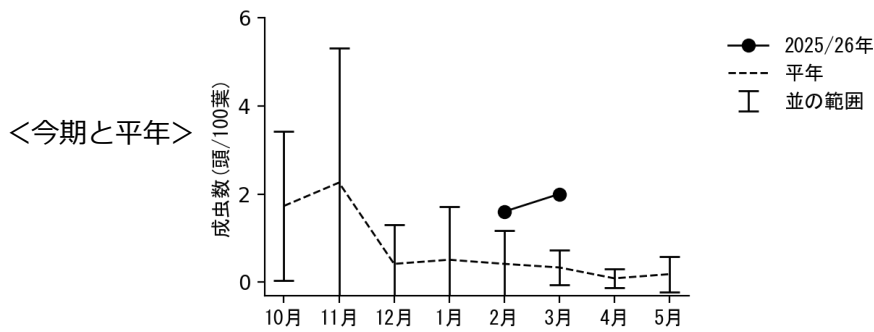
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

| | | | | |
|-------|---------------|---------------|---|--|
| 作物 | ピーマン(施設) | 地域 | 沖縄群島 | |
| 病害虫名 | ② ミナミキイロアザミウマ | |  | |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | やや多 | | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | → | | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | やや多 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | | |

調査結果

成虫数の推移




- ・発生施設率20.0% (平年：16.7%)
- ・一部ほ場で多発。

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

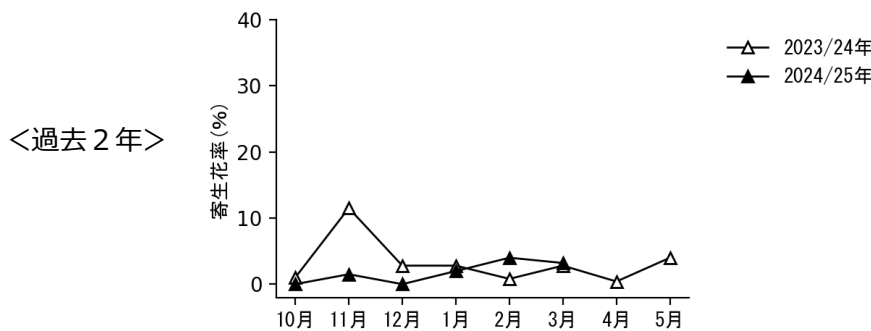
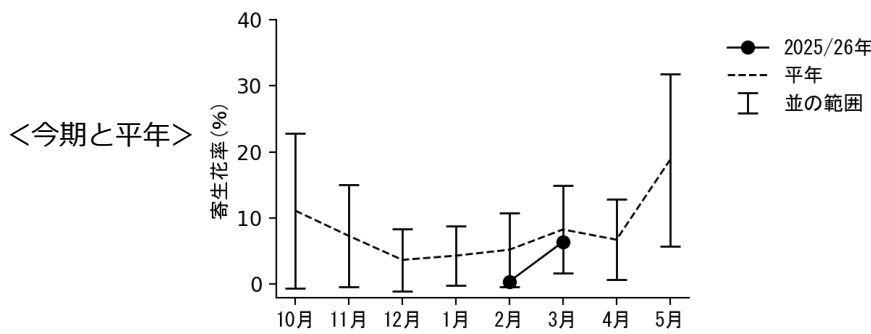


被害葉

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | ピーマン(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ③ ヒラズハナアザミウマ | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | → | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果


寄生花率の推移



・発生施設率80.0% (平年 : 47.7%)

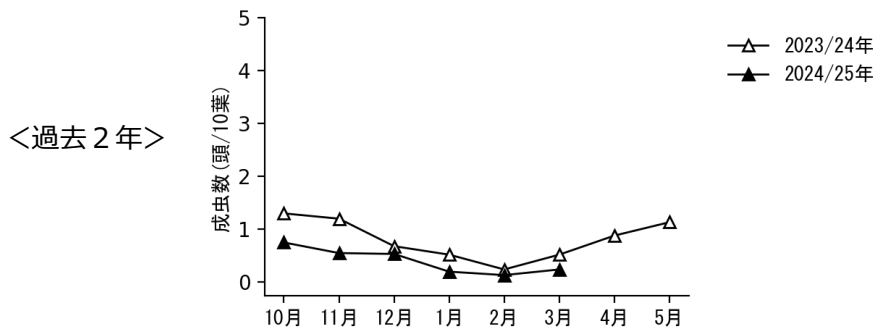
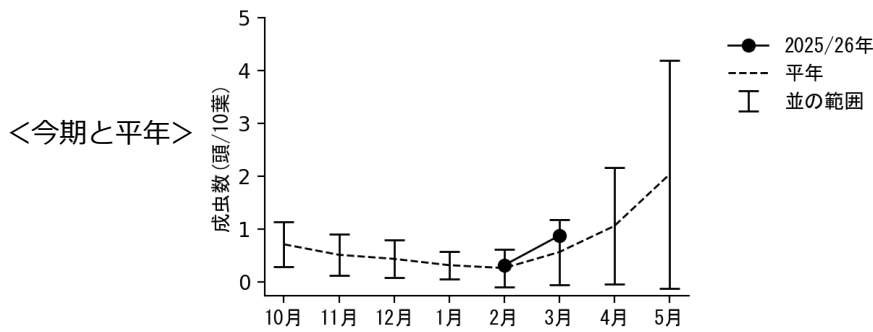
防除のポイント

- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | ピーマン(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ④ タバココナジラミ | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 55.6%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

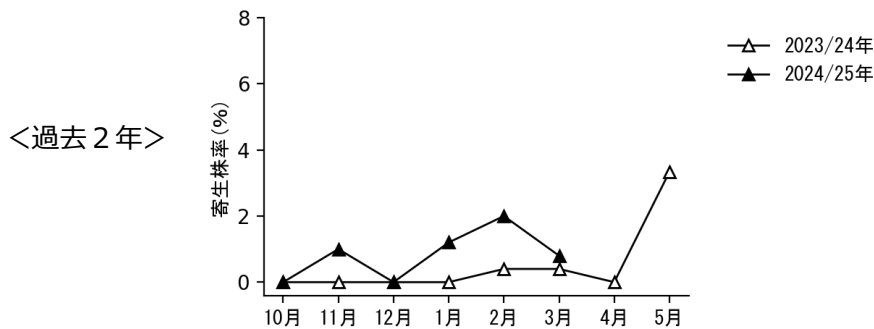
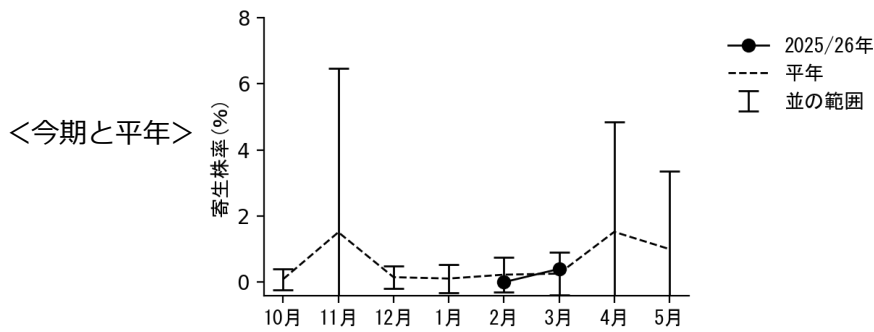


幼虫

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | ピーマン(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ⑤ アブラムシ類 | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果


寄生株率の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率20.0% (平年：5.6%)

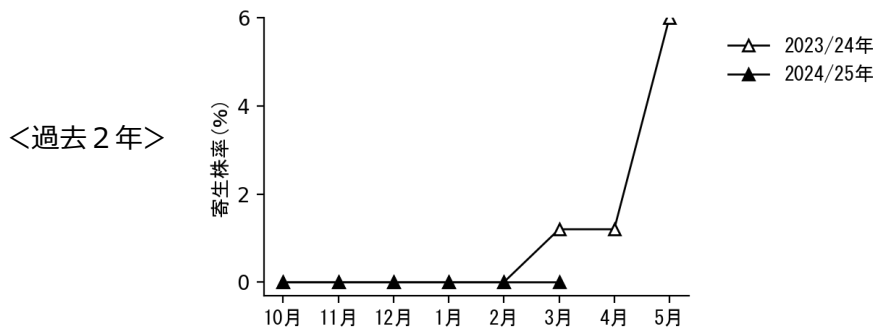
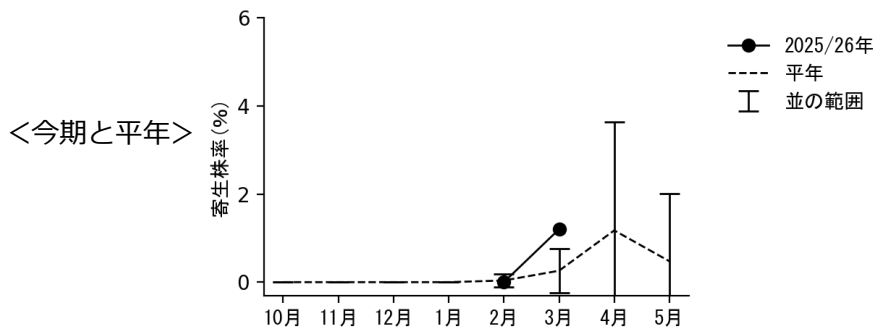
防除のポイント

- ・アブラムシ類はキュウリモザイクウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | ピーマン(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ⑥ ハダニ類 | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果


寄生株率の推移



- ・発生種：ミヤラナミハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：9.3%)

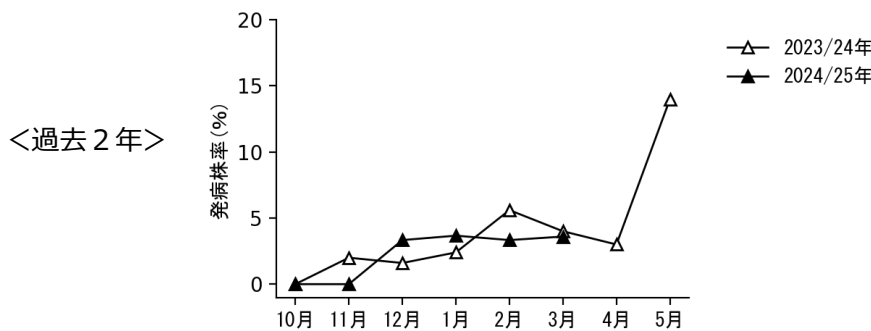
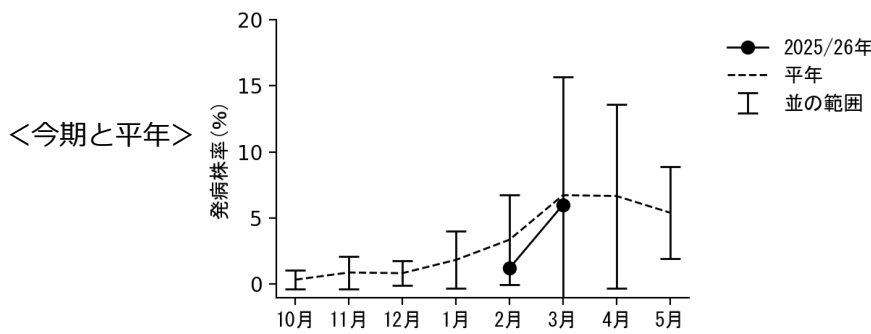
防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | トマト(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① 黄化葉巻病 | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予 報 | 3 月からの増減傾向 | → | |
| | | 4 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 42.9%)

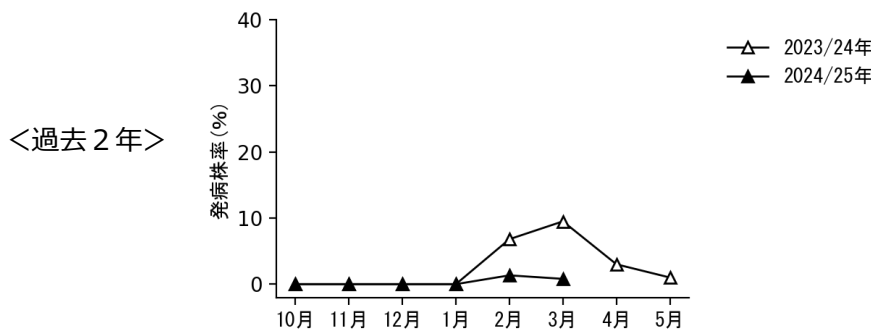
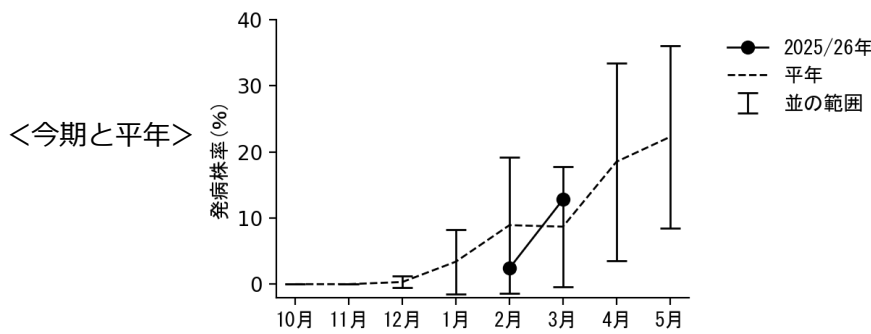
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・発病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。
- ・ムラサキカタバミやノゲシ等の雑草は本病に感染し、次期作の伝染源となるため除去する。

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | トマト(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② うどんこ病 | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 41.3%)

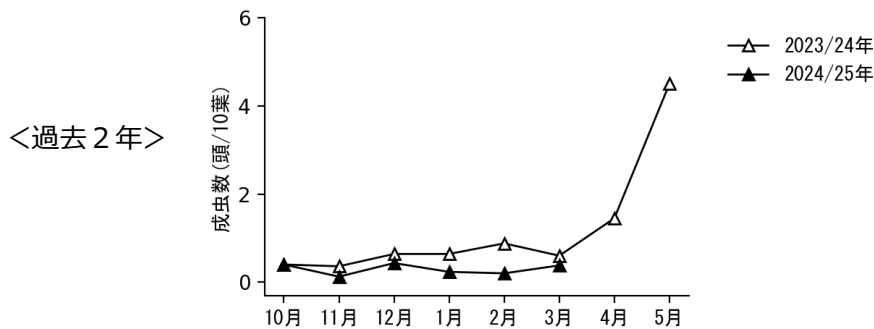
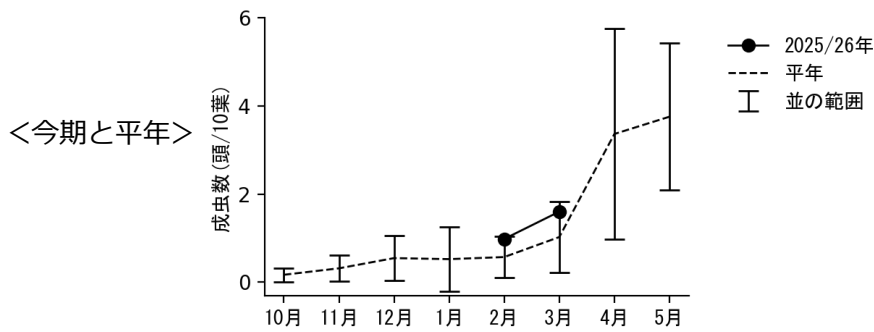
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・通風が悪いときに多発しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | トマト(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ③ タバココナジラミ | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 4 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 69.8%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

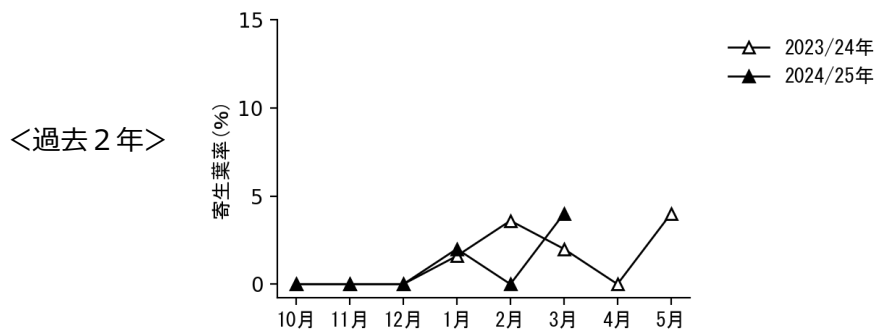
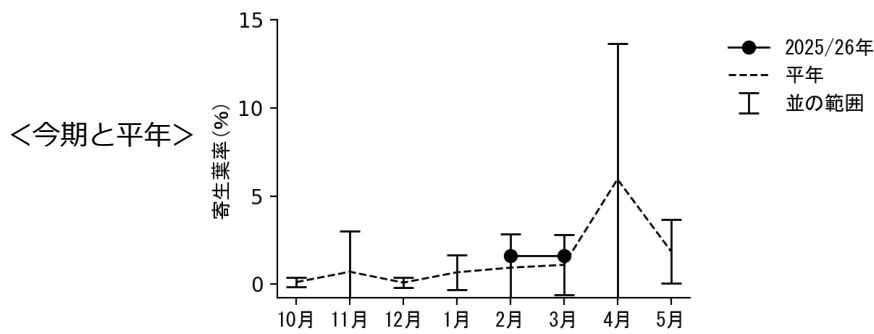


幼虫

| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | トマト(施設) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ④ ハモグリバエ類 | |  |
| 調査結果 | 3 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 3 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | | 4 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

寄生葉率の推移



・発生施設率20.0% (平年：15.9%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判定する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。



幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)